

タイトル:平成 24(2012)年度 教育セミナー

日時:平成 24 年 9 月 14 日(金)～17 日(月・祝)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究 3 階 マルチメディア会議室(304)

「ムスリム同胞団のエリート養成——戦間期のエジプト社会」

佐藤 耕太郎(東京学芸大学大学院)

平成 24 年度「中東☆イスラーム教育セミナー」に参加させていただきました。行き詰るほど研究をしているわけでもないのに、早々と行き詰まる自分に焦りを感じ、「自分の研究の問題点を浮かび上がらせること」をテーマに参加した次第です。実に他力本願であり、お恥ずかしい限りですが、この 4 日間で得たものは非常に大きいものでした。簡単ではありますが、今回のセミナーを振り返りたく思います。

《発表を通して》

今回は計 12 名の先生・院生の方々が発表をされました。各発表内容の濃さ・多様さは言うまでもありませんが、なかでも私が感激したのは発表への質疑応答の時間です。今同じように研究している院生の方々に対する先生方の指摘は、本質を鋭く突いてくるものでした。様々な角度から発せられる問いは、一つ一つが貴重なものであったと思います。私の研究とは全く異なる内容のものでも、私の研究にも応用できるものではないかと聞き洩らさないように臨むことができました。

私も発表の機会を得られ、今あるありのままの自分を発表させていただきました。結果として嵐のように批判を受けたわけではありますが、各方面で活躍される先生方に様々な指摘を頂けたことに幸せを感じずにはいられません。分析の際の視野の狭さは特に痛感するところでもあります。先行研究に胡坐をかき続けずに、自分の枠組みのなかで再構築する努力が不足していました。当時のエジプト社会は予想以上に複雑な構造になっており、同胞団の教育しようとした対象とその意図が一筋縄では説明できないことを思い知らされました。反省点を挙げるときりがありませんが、先生方に頂きました助言を念頭に精進していきたいと思っております。特にフォローを頂きました飯塚先生には感謝申し上げます。

《多様な院生に囲まれるということ》

私は孤独でした。大学院ではイスラームに関する研究を行う者がおらず、自分のもつ悩み等に理解してくれる者は少数であったと言えます。セミナーでは同じような地域・テーマをもつ院生と触れあうことが出来、さらには院生同士で情報・意見交換を行え、かなりの意義深さを感じています。ただ、へたれてしまつて女性陣から意見を頂けなかったのは残念でなりません。受講生の皆様、大変お世話になりました。

あまりアカデミックに総括できませんでしたが、自分が何をしたいのか、それには何が必要なのかが確認できたセミナーであったのは確かです。最後になりましたが、お世話になりました諸先生方、FSC 事務局 千葉淑子さんに深く御礼申し上げます。この 4 日間で得たものを日々発展させる所存です。